



T.C.K Fun! では「大自然あふれる蓼科中央高原エリアをもっと知ってもらうために」というコンセプトのもと、活動を行ってきた。活動では「蓼科中央高原 活性化プラン」という総合演習の課題のもと、エリアの概要・料金・イベント・アクセスなど様々な視点から蓼科中央高原を活性化させるためのプランを模索し、提案することとした。



・近隣施設や自然について

蓼科中央高原は自然に囲まれているのはもちろんだが、宿泊施設をはじめ、日帰り温泉やロープウェイ・湖などの観光スポット、美術館など様々な商業施設が多数存在する。そこで、蓼科の大自然に囲まれた広い土地を生かして国内プロゴルフツアーを誘致し、多数の選手やギャラリーの方々に泊まって頂きながら周辺の飲食店やお土産店などを積極的に利用してもらうことで活性化を図る案や、週末に首都圏から大型バスを運行してバスツアーを企画し、都会の生活で疲れた方々へ蓼科の四季それぞれの魅力を売り込むことで、個人個人だけでなく大人数でまとまった団体の集客を狙う。

・料金プラン

現状として蓼科中央高原エリアの商業施設では、施設ごとに入園料や利用料として料金が個別に設定されている。インターネットの口コミサイトを参考に利用者の感想を調べたところ、他の観光地と比較して平均よりも安く宿泊・利用出来るなどの理由から、現在の料金プランにおおむね満足している点を確認できた。そこで更に利用者の満足度を高めるために、クーポン制度の導入を提案することとした。現時点で各施設独自の「クーポン制度」を設けているところも存在するが、今回は蓼科中央高原エリアにある商業施設全体での統一クーポン制度について提案する。導入することにより、現在の蓼科中央高原エリアの料金体系を広く周知し、他の観光地よりも必要経費が抑えられることを理解してもらい、来てもらうきっかけを作る。そこに「クーポン制度」の存在を周知することで、さらに低価格で利用出来ることを印象づけ、リピーターの確保につな

げ、年齢を重ねて自身が高齢者となった時に、「ああ、そういう若い頃に行ったなあ」と思い出して頂き、再び訪れて頂けるようなきっかけになってもらえるようにする。

・蓼科中央高原へのイベント

蓼科中央高原エリアでは乗馬体験をはじめ、パラグライダーなどの様々なイベントが催されている。なかでも「グリーンツーリズム」と呼ばれる高原野菜等の収穫体験が出来る他、その収穫した野菜をその場で調理して食べることが出来るプランをT.C.K Fun! として強くアピールする。また、「グリーンツーリズム」を利用した追加プランとしてキャンププランを提供する。主な対象は学生で夏休みなどの長期休暇を利用して蓼科に来て頂き、自然に囲まれた生活をしながら野菜等の収穫体験を通して自然の大切さを学び、同時に蓼科の魅力を全面的にアピールする。対象を学生にしたのは、学校単位での集団旅行プランとすることで、一回の集客率を上げることで、プロゴルフツアーの場合と同様に活性化を図るためである。

・蓼科中央高原でのアクセス

蓼科に素晴らしい場所があったとしても、そこまで繋がるアクセスが悪ければ来て頂けるものも、なかなか来て頂けない。現実問題として、蓼科中央高原エリア内の移動手段は充実しているのだが、最寄り駅である JR 中央本線 茅野駅から蓼科中央高原エリアへつながる移動手段が少ない。そこでエリアまでの移動手段を充実させて気軽に行きやすい場所にすることを考えた。徒歩だと約2時間30分ほどかかるため、徒歩ではかなりの無理が生ずる。レンタカーなどでは5,000円弱でレンタル出来るが、エリア内の交通手段が充実していることから、必要性は薄い。路線バスになると、レンタカーやタクシーとほぼ同じ時間にもかかわらず、片道800円程で行けることが出来るので観光客の負担も少なく有用である。だが、バスの本数が1日数本と非常に少ない。そこで、路線バスの増便を検討し積極的な観光客誘致を狙う。また、観光タクシーの多様化についても提案を行う。具体的にはタクシーと先ほど提案したクーポン制度をセットにし、観光タクシーを利用した観光客に対してタクシー料金の割引または蓼科中央高原エリアの商業施設の割引クーポンを配布することで、アクセスの良い環境の整備を進める。

・まとめ

- ☆土地を生かしたイベントを行い、個人客だけでなく団体客の集客を狙い、集客率の向上を図る。
- ☆若年層に向け、クーポン制度などにより低価格で数居の低いプランを導入・提案する。また、制度によってリピーターの獲得にも力を入れて行く。
- ☆公共交通機関の利便性の向上を提案し、県外（主に首都圏）からのユーザーが気軽に来られるように関係各所と連携する案を提案する。